

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [ 特別の教科 道徳 ] 種目 [ 道徳 ]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切に、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。道徳教育においては、平成22年度に策定した「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」を平成27年度には「広島市道徳教育プログラム」として改訂し、指導方法の工夫・改善や、学校教育全体を通じた道徳教育のより一層の充実を図る取組を進めてきた。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査から、本市の児童は規範性や友達を受容・尊重し、協働する態度を身に付けてきていることがうかがえる。平成30年12月に、「広島市いじめ防止対策推進審議会」の答申が出されたことを踏まえ、各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は増加傾向にある。引き続き、いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともに、児童が当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 自己の生き方につなげるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 問題意識をもたせるための工夫 ④ 読み物教材における発問の工夫 ⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向 ⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑨ 教材の内容を理解させる工夫
<言語活動の充実>	⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫 ⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習を進めるために」として道徳科の学び方を、「気づく」「考える 話し合う」「ふり返る 見つめる」「生かす」と示している。また、1年の巻頭に、「道徳の時間はね…」として1ページに、2年から6年の巻頭に、「道徳の時間が始まるよ!」として、見開き2ページで、道徳科の学習活動をイラストで示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、四つの視点ごとに、内容項目と教材名を示している。

##### 視点② 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、毎時間分記入できる振り返りチェック欄「学習の振り返り」ページ（低学年：よく考えた・楽しくできた、高学年：よく考えた・別の考えに気づいた・自分を振り返った）と、1年間の振り返りを記入するページを設けている。また、各学年の巻末に、長期休業前に記入するページを設けている。
- 3年から6年の教材の最後に、「考えよう②」として、自己の生き方につなげる発問を示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 1・2年では、各教材の始めに、導入での発問を示している。また、各学年の「いじめのない世界へ」及び3年から6年の「問題を見つけて考える」には、扉のページを設け、導入の発問を示している。

##### 視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 3年から6年では、各教材の終わりに「考えよう」を設け、2つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」（1年）
  - ・ だれかがわがままを言うと、周りの人はどう感じますか。（教材名下）
- 【発問】「手品師」（6年）
  - ・ たった一人のお客様の前で、手品を演じているときの手品師の思いについて書いて、話し合ってみましょう。
  - ・ あなたは、そうしたほうがよいと思ったことを行動に移せたことはありますか。

##### 視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 3年から6年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページに「問題を見つけて考える」印等を付すとともに、「考えるステップ」を設けている。

##### 視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 役割演技や動作化を示していないが、各学年の目次及び該当ページに、「出会う・ふれ合う」の印を付し、コミュニケーション活動等を促している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 判型A B判
- ページ数・重さ

	ページ数	重さ (g)
1	125	270
2	143	300
3	165	340
4	169	340
5	181	370
6	197	390

※重さは一の位を四捨五入

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	9	9	6	34
2	10	8	10	7	35
3	9	8	11	7	35
4	9	8	11	7	35
5	8	7	12	8	35
6	8	7	12	8	35

- A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方****【いじめ】**

- 「いじめのない世界へ」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を合わせたユニットを設けている。

**【情報モラル】**

- 「情報モラル」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年1教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

**【他教科等との関連】****4 内容の表現・表記****視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫**

- キャラクター「こころん」を使い、学習活動や発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、各学年、漫画で示した教材を設けている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れ、6年では2段組の教材を2教材設けている。
- カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

**5 言語活動の充実****視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫**

- 巻頭の「道徳の学習を進めるために」「話し合いの約束」「ちょっとみんなで話し合ってみよう」で、話し合いのポイント等を示している。

**視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫**

- 自分の考え等を記入する欄を、数か所設けている。

1 基礎・基本の定着

**視点① 道徳科の学び方の示し方**

- 各学年本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習を始めよう」として道徳科の学び方を、イラストや吹き出しで示している。また、各学年の別冊に、「教科書まなびの使い方」を示し、「まなびを使って学習しよう」には、「気づく」「考えよう」「見つめよう」として、道徳科の学習活動をイラストや吹き出しで示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、印と色で分けて示している。

**視点② 自己の生き方につなげるための工夫**

- 各学年の別冊「まなび」に、毎時間分記入できる振り返りチェック欄「つなげていこう」（気付きがあった・深く考えた・これから見つめた）と、「まなびの道しるべ」に「ふりかえろう」として、振り返りを記入できる欄を2か所設けている。
- 各学年の別冊に、自己の生き方につなげる発問を、「みつめよう」と示している。
- 別冊の「まなびの道しるべ」に、保護者の記入欄を設けている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 問題意識をもたせるための工夫**

- 各学年の別冊の「こころのパレット」に、内容項目に関する発問を示している。

**視点④ 読み物教材における発問の工夫**

- 各学年の別冊「まなび」に、「やってみよう」「かんがえよう」「みつめよう」の印と、2～3つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」（1年）  
（かんがえよう）
  - ・ つるをひかれたかぼちゃは、泣きながらどんなことを思ったでしょう。
  - （みつめよう）
    - ・ やりすぎて後悔したことや、我慢してよかったことを思い出してみましょう。
- 【発問】「手品師」（5年）  
（やってみよう）
  - ・ 「手品師」になったつもりで「男の子」、「友人」役の人と話し、手品師の心の様子を考えましょう。
  - （かんがえよう）
    - ・ 男の子の前で手品を演じているとき、手品師はどのようなことを思っていたでしょう。
    - （みつめよう）
      - ・ 「誠実」であることとはどういうことでしょう。

**視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫**

- 各学年の別冊「『まなび』をつかって学習しよう」に、本冊の教材から課題に気付き、考える学習の流れを示している。

**視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫**

- 各学年の別冊に、「やってみよう」の印を付し、役割演技等を取り入れる発問を設定している。また、巻末の「まなびのヒント」に、役割演技を取り入れた学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向**

- 別冊には、内容項目ごとの配列で、本冊の教材に対応した発問や学習活動例、補足資料、自分の考えと友達の考えを記入する欄、学習の振り返り欄を設けている。
- 判型AB判
- ページ数・重さ（別冊）

	ページ数	重さ (g)
1	1 1 6 (48)	2 3 0 (140)
2	1 1 2 (48)	2 3 0 (140)
3	1 3 2 (48)	2 6 0 (140)
4	1 3 6 (48)	2 7 0 (140)
5	1 4 8 (52)	2 9 0 (150)
6	1 4 8 (52)	2 9 0 (150)

※重さは一の位を四捨五入

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	8	10	6	34
2	10	8	11	6	35
3	10	8	11	6	35
4	10	8	11	6	35
5	9	7	13	6	35
6	9	7	13	6	35

- A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧** 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

【いじめ】

- 「ともに生きる」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年、4～7教材取り上げ、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。また、「学級づくり」のページを設けている。

【情報モラル】

- 「情報モラル」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年1～2教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

【他教科等との関連】

- 各学年本冊の巻末に、防災教育やキャリア教育等の現代的な課題や、他教科等との関連を示している。

4 内容の表現・表記

**視点⑨** 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクターの設定はないが、「まなび」と「きづき」を示す印を使い、それぞれの関連を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、各学年、漫画で示した教材を設けている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。
- カラーユニバーサルデザインに配慮し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

5 言語活動の充実

**視点⑩** 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 本冊巻頭の「道徳の学習を始めよう」、別冊巻末の「まなびのヒント」に、話合いのポイント等を示している。

**視点⑪** 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考えと友達の影響等を記入する欄を、別冊に教材ごとに設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習が始まるよ」として道徳科の学び方を文章で示し、「道徳ではこんな学習をするよ」として、道徳科の学習活動を、イラストや吹き出しで「気づく」「考える」「深める」「つなげる」と示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、印と色で分けて示している。

### 視点② 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、「学びの記録」として、年間の学習を3つに分け、学習のまとめりごとに振り返る欄と、「一年間の道徳の学習を振り返ろう」ページを設けている。
- 各学年の教材の最後に、「深めよう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 各学年の巻末に、保護者の記入欄を設けている。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を、教材名の下に、吹き出しで示している。

### 視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう」「深めよう」「つなげよう」を設け、3～6つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(1年)
  - ・ つるを伸ばしたかぼちゃは、どうなっていくのかな。(教材名下)
  - (考えよう)
  - ・ 涙を流したとき、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。
  - ・ どうすればよかったか、かぼちゃに教えてあげましょう。
  - (深めよう)
  - ・ かぼちゃからどんなことを学びましたか。みんなで話し合ってみましょう。
- 【発問】「手品師」(6年)
  - ・ 「誠実な人」、「誠実な行動」などと言うことがあるよね。「誠実」ってどういうことかな。(教材名下)
  - (考えよう)
  - ・ 友人からステージへの出演の電話を受けたとき、手品師はどのようなことを考えたでしょう。
  - ・ 手品師のすばらしいところはどこでしょう。みんなの意見を聞いてみましょう。
  - (深めよう)
  - ・ 誠実に生きるとは、どのようなことでしょうか。自分の考えをまとめて発表しましょう。
  - ・ みんながこれから、誠実に生きていくために必要なことは何だろう。

### 視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年巻頭の「道徳ではこんな学習をするよ」に、授業で考えたいことをもち、考える学習の流れを示している。

### 視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「道徳ではこんな学習をするよ」に、役割演技を取り入れた学習活動を示している。また、各学年の目次に「スキル」と示し、「やってみよう」として、役割演技等を取り入れるような発問を設定している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### 視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。
- 判型A B判
- ページ数・重さ(別冊)

	ページ数	重さ(g)
1	130	270
2	138	300
3	148	310
4	160	330
5	164	340
6	168	350

※重さは一の位を四捨五入

○ 内容項目の教材料

	A	B	C	D	計
1	9	7	11	7	34
2	9	8	10	8	35
3	10	9	12	4	35
4	9	9	12	5	35
5	8	6	13	8	35
6	12	6	11	6	35

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方**

【いじめ】

- 「みんなと仲良くする」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年、2～6教材取り上げ、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

【情報モラル】

- 情報モラルについて、印を付し、目次に示している。
- 各学年1～3教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

【他教科等との関連】

- 各学年本冊の巻末に、防災教育やキャリア教育等の現代的な課題や、他教科等との関連を示している。

4 内容の表現・表記

**視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫**

- キャラクター「とりどり先生」を使い、疑問や、考えを深めたり広げたりする発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている
- カラーユニバーサルデザインに配慮し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

5 言語活動の充実

**視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫**

- 各学年巻頭の「道徳の学習が始まるよ」に、話し合いの意義等を示している。「道徳ではこんな学習をするよ」に、「話し合って考えよう」として、話し合う学習活動を示している。

**視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫**

- 自分の考え等を記入する欄を、教科所設けている。



1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 2年から6年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間は」として、道徳科の学習活動をイラストや吹き出しで示している。
- 各学年の目次に、四つの視点を示していないが、3年から6年の「道徳の時間に、みんなで考えていこう。」で、四つの視点ごとに、印と内容項目、教材名を示している。

視点② 自己の生き方につなげるための工夫

- 年間の学習を3つに分け、学習のまとめりごとに、毎時間分記入できる「学びの記録」ページと、各学年の巻末に、「まとめ」として、1年間の振り返りを記入するページを設けている。
- 2年から6年の教材の最後に、「つなげよう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を、教材名の下に、吹き出しで示している。

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう・話し合おう」、2年から6年は「つなげよう」を設け、2～5つの発問を示している。また、太字で学びのめあても示している。

○ 【発問】「かぼちゃのつる」(1年)

- ・ 自分のしたいことをするとき、考えなければいけないのは、どんなことかな。
- ・ あなたには、かぼちゃのつるを伸ばしたかった気持ちが、わかりますか。
- ・ かぼちゃがみんなの言うことを聞かなかったのは、どうしてでしょう。
- ・ かぼちゃがつるを伸ばすとき、どんなことを考えればよかったのでしょうか。

○ 【発問】「手品師」(6年)

- ・ だれかと約束したのに、守れなかったことって、ある？(教材名下)
- (考えよう、話し合おう)
- ・ 「誠実に生きる」とは、どういうことだろう。
- ・ 友人の「いい話」を聞きながら、手品師は、どんなことを思っていたでしょう。
- ・ 手品師は、どうしてたった一人のお客様の前で手品をするを選んだのでしょうか。
- ・ あなたは、「誠実に生きる」とは、どんな生き方のことだと思いますか。
- (つなげよう)
- ・ 人々から誠実さがなくなると、世の中はどうなるかな。

視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年に、葛藤場面や判断を求められる場面を設けた教材を選定している。

視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 2年から6年の「道徳の時間は」に、「演じて考えよう」として、役割演技等を取り入れる意義を示している。また、各学年の「考えよう・話し合おう」の中に、役割演技等を取り入れるような発問を設定し、「演じて考えよう」として、役割演技を取り入れた学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 判型B5判
- ページ数・重さ

	ページ数	重さ(g)
1	144	270
2	168	310
3	184	340
4	192	340
5	204	360
6	220	390

※重さは一の位を四捨五入

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	8	11	5	34
2	10	8	12	5	35
3	9	9	12	5	35
4	9	9	12	5	35
5	9	9	11	6	35
6	8	9	11	7	35

- A: 主として自分自身に関すること (低5 中5 高6)  
 B: 主として人との関わりに関すること (低4 中5 高5)  
 C: 主として集団や社会との関わりに関すること  
 (低7 中7 高7)  
 D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 (低3 中3 高4)

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方**

【いじめ】

- 「いじめを許さない心」として、目次に示している。
- 各学年、5～6教材取り上げ、いじめの問題について、直接的に扱う教材とコラムを合わせたユニットを設けている。

【情報モラル】

- 「情報と向き合う」として、目次に示している。
- 各学年1教材とコラムを合わせたユニットを設けている。

【他教科等との関連】

- 各学年本冊の巻末に、防災教育やキャリア教育等の現代的な課題や、他教科等との関連を示している。

**4 内容の表現・表記**

**視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫**

- キャラクター「こころん」「きらりん」を使い、疑問や、他の学習や生活とつなげる発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、各学年、漫画で示した教材を設けている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れ、2段組の教材を、5年では2教材、6年では7教材設けている。
- カラーユニバーサルデザインに配慮し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

**5 言語活動の充実**

**視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫**

- 2年から6年の「道徳の時間は」で、話し合う学習活動を示し、3年から6年で、話し合いを促す発問を設定している。また、各学年で、考えを伝え合うポイントを示すページを設けている。

**視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫**

- 自分の考え等を記入する欄を、数か所設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 道徳科の学び方の示し方

- 各学年本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学び方」として道徳科の学び方を、「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」と示すとともに、学習活動を写真やイラスト、吹き出しで示している。また、別冊の巻頭に、「道徳ノートについて」として別冊の使い方を示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、印と色で分けて示し、巻頭の「道徳のとびら」で、四つの視点ごとに印と内容項目を示している。

### 視点② 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の別冊に、毎時間分記入できる振り返りチェック欄（しっかり考えた・新しく気づいたことがあった・これから大切にしたいことがわかった）があり、巻末には振り返りを記入できるページを設けている。
- 各学年の教材の最後に、「見つめよう 生かそう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 別冊の巻末に、保護者の記入欄を設けている。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を示している。

### 視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えてみよう」「見つめよう生かそう」を設け、2つの発問を示している。「学習の手引き」のページを設け、3～6つの発問を示している。また、各学年の別冊には、「考えてみよう」の発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」（1年）
  - ・ 「わがままですよ。」と注意されるのは、どんなときですか？（教材名横）（考えてみよう）
  - ・ かぼちゃがぼろぼろ涙をこぼすのを見て、みんなはどう思っただろう。（見つめよう生かそう）
  - ・ 人の注意を聞いて、我慢することができたときのことを思い出してみよう。
- 【発問】「手品師」（6年）
  - ・ 「手品師」というお話を通して、「誠実」ということについてみんなで考えましょう。（教材名横）（考えてみよう）
  - ・ どんな思いから、手品師は男の子との約束を選んだのだろう。（見つめよう生かそう）
  - ・ この学習を通して、「誠実に生きる」ということについて、自分の思いをまとめよう。

### 視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページに印を付すとともに、「学習の手引き」を設け、問題解決的な学習のステップを示している。

### 視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「道徳の学び方」に、「動いてみよう」とし、体験的な学習活動を示している。また、各学年の体験的な学習に適した教材には、目次及び該当ページに印を付すとともに、「学習の手引き」を設けて、役割演技等の体験的な学習活動を示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### 視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊には、本冊の教材順と同じ配列で、教材に対応した発問と記入欄、自由に記入できる欄、学習の振り返り欄を設けている。
- 判型A B判
- ページ数・重さ（別冊）

	ページ数	重さ (g)
1	148 (40)	320(110)
2	164 (40)	350(110)
3	176 (40)	370(110)
4	184 (40)	380(110)
5	184 (40)	380(110)
6	184 (40)	380(110)

※重さは一の位を四捨五入

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	13	5	37
2	11	8	13	6	38
3	11	9	12	6	38
4	9	10	13	6	38
5	8	9	14	7	38
6	9	8	13	8	38

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方**

【いじめ】

- 「人との関わり」と「いじめをなくすために」として、目次に3か所示している。
- 各学年、7～8教材取り上げ、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を合わせたり、コラム「心のベンチ」と組み合わせたりして、「いじめ防止」ユニットを設けている。

【情報モラル】

- 「情報モラル」として、目次に示している。
- 各学年1～3教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材やコラムで構成している。

【他教科等との関連】

- 各学年本冊の巻末に、防災教育やキャリア教育等の現代的な課題や、他教科等との関連を示している。

4 内容の表現・表記

**視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫**

- キャラクター「ココロウ」「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」を使い、疑問や、考えるポイント、発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、漫画で示した教材を設けている。教材のあらすじや主な登場人物を、教材名の隣に示している。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れ、6年では2段組の教材を3教材設けている。
- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

**視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫**

- 各学年巻頭の「道徳の学び方」、「学習の手引き」「心のベンチ」で、話し合う活動等を示している。

**視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫**

- 自分の考え等を記入する欄を、別冊に教材ごとに設けている。

# 1 基礎・基本の定着

## 視点① 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「さあ、道徳の学習が始まります」として道徳科の学び方を、「道徳の時間は、こんな時間です」として、「問いをもつ」「考える（自分の体験と重ねて考える・やってみて考える・話し合ってみる）」「まとめる」「いろいろな場面で…」とイラストや吹き出しで示している。また、見開き2ページに、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を印と色で分けて示し、「さあ、道徳の学習が始まります」で、四つの視点について示している。

## 視点② 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、毎時間分記入できる「学びの足あと」ページがあり、まとめを記入できる欄を3か所設けている。
- 各学年の教材の最後に、「広げる」印と、自己の生き方につなげる発問を示している。

# 2 主体的に学習に取り組む工夫

## 視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を示している。

## 視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 各学年教材の下段に、吹き出しで1～4つの発問を示し、教材の終わりに、学習のまとめと生活に広げる発問を2つ示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(1年)
  - ・ 注意されたのに聞かなかつたり、わがままをしたりすると、どうなってしまうのでしょうか。(教材名横)
  - ・ のびのびとすることは、悪いことかな。
  - ・ かぼちゃはどうすればよかったのかな。
  - ・ わがままをしないために気を付けたいことを発表しましょう。
  - ・ 発表したことを家の人に伝え、実際にやってみよう。
- 【発問】「手品師」(5年付録)
  - ・ あなたは、本気で悩んだことがありますか。(教材名横)
  - ・ 男の子に「きつと来るよ。」と答えたとき、手品師は、どのようなことを考えていたのかな。
  - ・ 「友人」から電話をもらって、手品師が悩んだのは、どんなことだったのかな。
  - ・ 手品師は、なぜ大劇場に出られるチャンスをごとったのかな。
  - ・ 手品師はどのような思いで、男の子の前で手品をしているのでしょうか。
  - ・ 手品師の生き方をどう思いますか。また、あなたはどのような生き方がしたいですか。
  - ・ 「誠実に生きる」とは、どういうことだと思いますか。みんなで話し合ってみよう。

## 視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「道徳の時間は、こんな時間です」に、問いをもち、考える学習の流れを示している。

## 視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「道徳の時間は、こんな時間です」に、1・2年では「学んだことを、やってみて考えよう」、3年から6年では「やってみて考える」として、体験的な学習活動を示している。また、各学年の目次及び該当ページに、「みんなでやってみよう」として、役割演技等を取り入れた体験的な学習活動を示している。

# 3 内容の構成・配列・分量

## 視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 判型A4判(変形)
- ページ数・重さ

	ページ数	重さ(g)
1	152	370
2	160	390
3	176	420
4	180	430
5	184	440
6	188	450

※重さは一の位を四捨五入

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	12	9	12	7	40
2	11	10	13	6	40
3	7	12	14	7	40
4	8	11	14	7	40
5	10	9	13	8	40
6	10	8	13	9	40

- A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧** 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

【いじめ】

- 「いじめを生まない心」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年、4～8教材取り上げ、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

【情報モラル】

- 「情報モラル」として、印を付し、目次に示している。
- 各学年1～2教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材を選定している。

【他教科等との関連】

- 各学年本冊の巻末に、防災教育等の現代的な課題との関連を示している。

4 内容の表現・表記

**視点⑨** 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」「わんだ先生」を使い、疑問、考えるポイント、発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、各学年、漫画で示した教材を設けている。また、登場人物を教材名の下に示している。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れ、2段組の教材を、5年では2教材、6年では1教材設けている。
- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

**視点⑩** 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各学年巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」に、1・2年では「友達や先生と考えたことを話し合ってみましょう」、3年から6年では「話し合ってみよう」として、話し合いのポイント等を示している。

**視点⑪** 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、数か所設けている。

1 基礎・基本の定着

**視点① 道徳科の学び方の示し方**

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習がはじまるよ」として道徳科の学び方を、「気づく」「考える」「見つめる」と示すとともに、学習活動を、イラストや吹き出しで示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を印と色で分けて示し、「道徳の学習が始まるよ」で、四つの視点について示している。

**視点② 自己の生き方につなげるための工夫**

- 各学年の巻頭に、「自分のことを書いてみよう」ページがあり、各学年の巻末に、1年間の振り返りを記入する「心の宝物」ページを設けている。
- 各学年の教材の最後に、「考えよう②」や「つなげよう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 問題意識をもたせるための工夫**

**視点④ 読み物教材における発問の工夫**

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう」を設け、1～2つの発問を示し、「深めよう」を設け、3～5つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(1年)
  - ・ 泣いているかぼちゃさんの気持ちを言ってみよう。
  - ・ かぼちゃさんに、どんなことを教えてあげたらいいのだろう。
- 【発問】「手品師」(5年)
  - ・ 友人からのさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えただろう。
  - ・ 自分が手品師だったら、どんなことを大切にしよう。

**視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫**

- 各学年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページに印を付すとともに、「深めよう」を設け、問題解決的な学習の過程を示している。

**視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫**

- 各学年の目次及び該当ページに、「やってみよう」の印を付すとともに、役割演技等の体験的な学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向**

- 判型A4判
- ページ数・重さ

	ページ数	重さ (g)
1	136	330
2	140	340
3	152	370
4	156	380
5	164	390
6	168	400

※重さは一の位を四捨五入

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	9	6	34
2	12	8	9	6	35
3	9	9	11	6	35
4	9	9	11	6	35
5	9	9	9	8	35
6	9	9	9	8	35

A: 主として自分自身に関すること (低5 中5 高6)  
 B: 主として人との関わりに関すること (低4 中5 高5)  
 C: 主として集団や社会との関わりに関すること  
 (低7 中7 高7)  
 D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 (低3 中3 高4)

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方**

【いじめ】

- 各学年、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

学 研 教 育 み ら い	<p>【情報モラル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 掲載されているページに、印を付して示している。</li> <li>○ 各学年1～2教材取り上げ、情報化への対応について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。</li> </ul> <p>【他教科等との関連】</p>
	<p>4 内容の表現・表記</p> <p><b>視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャラクター「あすか」「みらい」を使い、主人公として各学年1つの教材に登場している。</li> <li>○ どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。また、各学年、漫画で示した教材を設けている。</li> <li>○ 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。</li> <li>○ カラーユニバーサルデザインに配慮し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。</li> </ul>
	<p>5 言語活動の充実</p> <p><b>視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年巻頭の「道徳の学習が始まるよ」と、教材の最後に、話し合う活動を示している。</li> </ul> <p><b>視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考え等を記入する欄を、教材によって設けている。</li> </ul>



1 基礎・基本の定着

**視点① 道徳科の学び方の示し方**

- 2年から6年の本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間はこんな時間」として、道徳科の学習活動を文章で示している。
- 各学年の目次に、四つの視点を示していないが、巻末に、四つの視点ごとに、内容項目と教材名を示している。

**視点② 自己の生き方につなげるための工夫**

- 各学年の別冊に、毎時間分の振り返りチェック欄（よくできた・できた・もっとがんばりたい）と感想を記入できる欄を設け、「自分を見つめ、考えよう」ページや話し合い活動の内容等を記録するページを設けている。
- 各学年の教材の最後に、「考えよう 話し合おう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 各学年別冊の巻末に、保護者や先生の記入欄を設けている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 問題意識をもたせるための工夫**

**視点④ 読み物教材における発問の工夫**

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう 話し合おう」を設け、2～5つの発問を示し、3年から6年では、学習のめあても示している。また、各学年の別冊には、内容項目に合わせた発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」（1年）
  - ・ かぼちゃのつるは、どんな思いで、ぼろぼろ涙をこぼして泣いたのでしょうか。
  - ・ どうしてわがままをしない生活が大切なのでしょう。
- 【発問】「手品師」（6年）
  - ・ 手品師の迷いと決断を通して、誠実であることのすばらしさについて考える。
  - ・ 手品師は、どのようなことを考えて迷っていたのでしょうか。
  - ・ 手品師はどのように考えて、友人の誘いをきっぱりと断ったのでしょうか。
  - ・ 「ぼくにとっては」という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう。
  - ・ 人に対して誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか。

**視点⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫**

- 3年から6年の教材の最後に、「学習の道すじ」を設け、学習のめあて等を示している。

**視点⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫**

- 各学年の「考えよう 話し合おう」の中に、体験的な学習を促すような発問を設定している。また、3年から6年では、「学習を広げる」の中に「活動しよう」と示し、役割演技等を取り入れた体験的な学習活動を促している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向**

- 別冊には、内容項目ごとの配列で、授業の振り返りや学習の記録を記入する欄を設けている。
- 判型A B判
- ページ数・重さ（別冊）

	ページ数	重さ (g)
1	112 (36)	250 (100)
2	112 (44)	250 (120)
3	120 (44)	270 (120)
4	132 (44)	290 (120)
5	156 (48)	330 (130)
6	164 (48)	350 (130)

※重さは一の位を四捨五入

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	10	5	34
2	11	8	11	5	35
3	10	9	11	5	35
4	10	9	11	5	35
5	11	8	10	6	35
6	11	8	10	6	35

- A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）  
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること  
 （低7 中7 高7）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 （低3 中3 高4）

**視点⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方**

【いじめ】

- 各学年、いじめの問題について、直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。

【情報モラル】

- 3年から6年では、掲載されているページを、目次に示している。
- 各学年1～2教材取り上げ、情報化への対応について、低学年では、間接的に扱う教材を選定し、高学年では、直接的に扱う教材を選定している。

【他教科等との関連】

4 内容の表現・表記

**視点⑨ 教材の内容を理解させる工夫**

- キャラクターの設定はないが、3年から6年の「考えよう 話し合おう」の中で「学習の道すじ」の印を使い、学習のめあてを示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真を掲載している。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。
- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

**視点⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫**

- 2年から6年巻頭の「道徳の時間はこんな時間」に、話し合いの意義やポイントを示している。

**視点⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫**

- 自分の考え等を記入する欄を、別冊に内容項目ごとに設けている。

#### 4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

**意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。**

(理由)

- ・ 各学年各教材の終わりに、「考えよう・話し合おう」、2年から6年は「つなげよう」を設け、2～5つの発問を示していることや、太字で学びのめあてを示していることは、児童が考え、話し合う活動に進んで取り組むことに効果的である。
- ・ 2年から6年の「道徳の時間は」のページの中で、「演じて考えよう」として、役割演技等を取り入れる意義を示している。また、各学年の「考えよう・話し合おう」の中に、役割演技等を取り入れるような発問を設定している。さらに、「演じて考えよう」として、役割演技を取り入れた学習活動を示し、体験的な学習を取り入れることを促す工夫をしている。
- ・ いじめについては、「いじめを許さない心」と目次に示している。各学年、5～6教材取り上げ、いじめの問題について直接的に扱う教材とコラムを合わせたユニットを設けている。

**意見2 学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。**

(理由)

- ・ 各学年の別冊「まなび」に、「やってみよう」「かんがえよう」「みつめよう」の印と、2～3つの発問を示している。
- ・ 各学年の別冊に、「やってみよう」と印で示し、役割演技等を取り入れる発問を設定している。また、巻末の「まなびのヒント」に、役割演技を取り入れた学習活動を示している。
- ・ いじめについては、「ともにいきる」と印を付し、目次に示すとともに、各学年、4～7教材取り上げ、いじめの問題について直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。また、「学級づくり」のページを設けている。

「令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について(答申)」において意見を付された教科用図書一覧

番号	種 目	発 行 者	
		よりふさわしい	ふさわしい
1	国 語	光村図書出版	東京書籍
2	書 写	東京書籍	教育出版
3	社 会	東京書籍	日本文教出版
4	地 図	帝国書院	東京書籍
5	算 数	東京書籍	日本文教出版
6	理 科	教育出版	東京書籍
7	生 活	教育出版	東京書籍
8	音 楽	教育出版	教育芸術社
9	図画工作	日本文教出版	開隆堂出版
10	家 庭	開隆堂出版	東京書籍
11	保 健	光文書院	学研教育みらい
12	英 語	東京書籍	教育出版
13	道 徳	光村図書出版	学校図書